

令和 5 年度事業報告

(令和 5 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日まで)

I. 法人の状況に関する事項

本年度は、昨年 5 月に新型コロナウイルスの感染法上の位置付けが、2 類から 5 類に移行し、3 年余り続いたコロナ禍の大きな節目となりました。外出自粛の要請がなくなり、マスクの着用が個人の判断に委ねられた結果、今まで大きな制約を受けていた研修・体験活動（淳風美俗育成事業）がコロナ禍以前に戻ろうとした 1 年でした。

染色、染料及び色彩に関する研究等事業（学術研究事業）での繊維染色委員会も一堂に会して開催し、研究成果を上げることができました。

収益事業は、事業用賃貸建物 4 棟の管理及び 2 件の土地賃貸を滞りなく行い、公益目的事業の予算規模に応じた収益を得ることができております。

関係各位のご支援ご協力により事業活動を順調に継続できましたこと深く感謝申し上げます。まことにありがとうございました。

役員に関しましては、理事が 6 名、監事 2 名の体制で推移致しました。

II. 事業の状況

1. 淳風美俗育成事業（公益目的事業 1）

キャンピング指月林敷地内にあるキャンプ場、研修棟、グラウンドや染料植物園を活用し、青少年にとって自主的な活動をなすことに主眼を置きながら、研修・体験希望者の目的や年齢構成を常に意識した六つのプログラム（キャンピング、瞑想、作務、茶道、草木染、スポーツ）をもとに研修・体験活動を継続いたしました。

活動実績は、68 団体、来場者総数 1420 人、活動日数 68 日で、前年を大きく上回り、コロナ禍以前に近い来場者がありました。（それぞれの前年度実績は、28 団体、1042 人、47 日）

コロナ感染対策としては、手指の消毒徹底に留意しております。

個別プログラムの状況は、以下のとおりです。

(1) キャンピング研修

28 団体（39 延団体）、1468 人の参加、60 日の活動実績です。（前年度は、25 団体、延 24 団体、820 人、39 日）

野外炊飯時の安全確保、作業分担、効率の良い活動に主眼をおいて指導しました。コロナ 2 類時点では受け入れなかったテント泊も団体側の強い希望に基づき再開し、以前と変わらない状況に戻りつつあります。

SDG's のゴール 12 (つくる責任 つかう責任)に通じるエシカル消費活動は、事前の打ち合わせ時に団体責任者に確認の上、取り組みを進めています。

(2) 瞑想研修

例年ほぼ全来場団体が参加されますが、34 団体 (延 57 団体)、1381 人の参加、57 日の実績となりました。(前年度は 17 団体、延 27 団体、619 人、27 日)

「落ち着く場所や自分を見つめる場所がない」(研修後の感想文による) 日常にあって大変有意義な時間だと、最近来場が増加した大学生からも高評価を得ています。ここでは短時間の体験ですが、「自宅でもやってみる」という効果を生む研修となりました。静かに落ち着ける環境を整備しております。

(3) 茶道研修

敷居が高いと思われる茶道のきっかけとして、親しみやすい茶道体験を目指しました。限られた時間内で効果を上げるため、人数の上限を定めた上で、研修参加者の要望、年齢、経験等に応じた指導を心掛けました。本年度は、4 団体 (延 4 団体)、56 人の参加、4 日でした。(前年度の実施はありません)

(4) 作務研修

32 団体 (延 55 団体)、1388 人の参加、55 日の活動実績です。(前年度は 27 団体、延 43 団体、967 人、43 日)

「来たときよりも美しく」と「次の人のために美しく」の考えを浸透させるよう努めました。この考えのもとに行うという事前説明に、小学生が最も敏感に反応してくれます。春から初夏にかけては草引き、初夏や晩秋には落ち葉の清掃など季節に応じて楽しく取り組める内容も盛り込んで行いました。

(5) 草木染研修

6 団体 (延 9 団体)、287 人の参加、12 日の活動実績です。

(前年度は 10 団体、延 11 団体、363 人、11 回)

染料植物園で採取した染材での体験を基本として行ないました。草木染の奥深さを体感してもらうために、当日に煮出しから染色までを完結する染材だけでなく、前日又は事前に長時間の煮出しによってはじめて染液を得られる染材にも取り組んでいます。時期によっては、採取から染色まで一貫して体験できる染材もあり、季節を感じてもらえる内容も大切にしています。

(6) スポーツ研修

19 団体 (延 23 団体)、699 人の参加、22 回の実績となりました。(前年度は 12 団体、延 16 団体、409 人、16 日)

参加者は小学生が中心です。継続的な活動となることに主眼を置きながら、安全を

第一に行いました。全面張り替えたグラウンドの芝も、日常の手入れの甲斐もあり初夏には一面青々としてふかふかになりました。日頃、広い場所で運動する機会の少ない団体が多く、四季を通じたドッジボールやフリスビー、夏は水鉄砲大会、秋には運動会など芝生のグラウンドで実施するスポーツ研修は、たくさんの笑顔が見られる活動になりました。

2. 学術研究事業（公益目的事業2）

繊維染色研究は、例年と変わることなく年度初めに設定したテーマに取り組みました。年3回実施する繊維染色委員会は、コロナ禍以前と同様に研究員全員が一堂に会して開催することができました。

附属染料植物園で植栽している染料植物は、草木染の科学的研究、染料の保存方法の研究、草木染研修、染料植物の学習に活用しました。

(1) 繊維染色研究

本年度も研究活動を論文としてまとめ、論文集「葆光」第35号に掲載しました。

掲載テーマ

- ① 羊毛繊維の酸性媒染染色におけるクロムによる後媒染機構
- ② インクジェットプリンタの顔料インク染めの表面分析とイメージ効果
- ③ 藍生葉の染色法に関する一考察 ―染色表面濃度に及ぼす染浴条件―
- ④ ハイノキの灰を媒染剤としたムラサキ色素による羊毛布の染色

(2) 繊維染色委員会

本年度の繊維染色委員会は、以下の日程で行いました。

- 第1回 令和5年 8月 4日
- 第2回 令和5年12月 1日
- 第3回 令和6年 3月 8日

(3) 附属染料植物園

附属染料植物園は、樹木系エリアと畑(低木と草花系)エリアに分け、共に植栽種の増加を求めるより、時宜を得た植栽内容となるよう努めました。特に畑エリアでは、草木染研修や学術研究用などで必要な染材を提供するために、適切な時期に、幹、枝、葉、花卉などを採取し、乾燥の後、保存しております。また、来場者が自ら染料植物園で採取した染材を研修に使用することもありました。

- ① 樹木系エリアでは、定期的に標準管理スケジュールと現状を確認し、専門家の判断も仰ぎながら、適宜、剪定、補植等の必要な手入れと必要な処置を取っております。

- ② 畑エリアでは、栽培計画に基づき主に草花・野菜系染料植物を育て、低木系染料植物の植栽とともに、染材として提供できる体制を整えております。
- ③ 染料植物説明板（全 218 枚）を維持管理し、研修活動時の自然への興味向上や草木染学習・染料植物園見学に活用しております。来場時のオリエンテーションやクイズなどに活用できるよう、記載内容の見直しや更新も適宜行いました。
- ④ 「食」に関する知識、「食」への感謝などを経験できる良い機会となるように、野外調理などで食材として使用できる野菜や果実を栽培し、ジャガイモの場合、植付けから収穫、野外調理までの一貫した体験も実施できました。

3. 収益事業

不動産賃貸管理事業の管理手数料収入が、期中の賃料増額により予算を上回る収入となりました。不動産賃貸事業は、計画どおりの収入でした。

(1) 不動産賃貸管理事業

	<u>期 首</u>	<u>期 末</u>
事業用建物	4 棟 1 0 相手先	4 棟 1 0 相手先

(2) 不動産賃貸事業

2 件の土地が年度を通して稼働しました。

以 上